

平成 29 年度シラバス (海洋環境)

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科 (科目)	水産 (海洋環境)	単位数	2 単位	学年 (コース)	2 学年 (資源育成コース)
使用教科書	海洋環境 (海文堂出版)				
副教材等	なし				

1 学習目標

海洋や陸水の環境に関する基礎的な知識と保全技術を習得させ、水産増養殖業や海洋工事等に活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

海洋環境に配慮した資源増殖や海洋工事等を行うために

- ①環境に対する関心を高め、海洋環境を改善して管理しようとする態度を育てることを目指します。
- ②海洋・陸水環境の保全及び海洋環境関係法規の基礎的な内容の習得を目指します。
- ③栽培漁業における基礎的な環境要因及び水産生物の生育に適する水質や自然条件などの環境づくりについての知識と技術の習得を目指します。

3 指導計画

全体座学 (2 単位)					
月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	海洋環境管理の概要	海洋環境管理の概要	○海洋環境における海洋の役割について理解する。 ○海洋環境問題の歴史及び海洋環境管理の将来展望について理解する。	8	定期考査 授業の取組 ノート
5	1 学期中間考査				
6	海洋・陸水環境の保全	海の構造	○海と陸の分布及び大洋の地形について理解する。 ○海水の組成、海の生物、海水の運動について理解する。	10	
7	1 学期期末考査				
9	海洋・陸水環境の保全	海洋環境の保全	○地球温暖化、エルニーニョ現象などの気象変動について理解する。 ○内分泌かく乱物質やダイオキシンなどの化学物質の汚染について理解する。	18	
10	2 学期中間考査				
11	海洋・陸水環境の保全	陸水環境の保全	○河川及び湖沼における環境要因について理解する。 ○陸水の汚染の現状及び陸水の環境保全について理解する。	18	
12	2 学期期末考査				
1	海洋・陸水環境の保全	海洋環境関係法規	○海洋環境に関係する国際条約及びわが国の主な法律について理解する。 ○水質汚染、水質汚濁、富栄養化有害物質、水産廃棄物の問題などの水産生物に与える影響について理解する。	10	
2	栽培漁業を取り巻く環境	水産生物と環境要因			
3	3 学期学年末考査				

計 64 時間 (55 分授業)

4 課題・提出物等

各定期試験終了時に授業ノートを提出します。
夏季および冬季休業中の課題は別途指示します。

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
海洋や陸水の環境と保全技術について関心を持ち、意欲的に授業に参加して、内容を理解しようとしている。	海洋や陸水で起きた環境問題の背景・原因について考え、環境問題に対して適切に判断し、問題解決に結びつけることができる。	海洋や陸水での環境問題を解決する方法を身に付け、海洋環境に配慮した栽培漁業や海洋工事等の計画を立てることができる。	海洋や陸水の環境特性や保全技術の基本的な概念・手法及び栽培漁業における環境要因について理解している。
<p>以上の観点を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業への取組状況（授業態度、学習活動への参加状況等） ○課題プリント、ノート等の提出物、小テスト ○定期考査 <p>などから、総合的に判断します。</p>			

6 担当者からの一言

この科目では、海洋や陸水に関する基本的な環境保全の方法や現状などについて学びます。漁業や水産増養殖を行う上で身に付けていなければならない大切な知識です。私たちの生活と直接、間接的に深い関係があるので、将来、水産関係の職業に就く場合はもちろんのこと、他の職業に就く場合でも教養として学んでおくことは大変意味があります。

担当：(渡邊 憲一)